〔中右記〕寛治八年〇嘉保元年十二月十一日、辨侍來云、神今食合ト右少辨、俄穢氣、仍相催他辨之處、皆以故障所出立也、入夜先參內、次參神祇官、〇略中已及鷄鳴、上卿以下起座行向神殿前、撤打拂坂枕壺等、各退出、〇略中　上卿命云、近代腰衾、并圍碁之興絶了、〇略下

〔台記〕天養元年八月四日癸未、依西京雜記意、遣侍尾張兼忠惟宗盛言、合手口於實長家北戸竹下、令圍碁、二枰兼忠共勝、予、〇藤原頼長平常兼忠口負云々、今日有興事歟、可有福之象也、　二年〇久安元年二月十一日丁亥、列見、〇略中有圍碁興、東座權右中弁朝隆、朝臣、左少弁師能、西座少納言成隆、同能忠、余已下相分爲念、〇念下恐歟、〇又見本朝世紀、百練抄、

〔古今著聞集十二博奕〕久安元年、列見式日にをこなはれけるに、宇治左府〇藤原頼長內大臣におはしましける、參給て事々おこし行はれけり、朝所にて盃酌の後、圍碁有けり、權右中辨朝隆朝臣、左少辨師能、又少納言成隆、能忠等、二雙つかうまつりける、むかしは公卿ぞうちける、辨少納言つかうまつる事は、例たしかならぬ共、時代によりて定られけるとぞ、公卿は念人にてぞ有ける、此事絶て久しく成てけるに、めづらしかりける事也、

〔愚昧記〕仁安三年五月十一日壬午、依徒然興、冠者成圍碁之戲、

〔源平盛衰記二十五〕時光茂光御方達盜人事

金田府生時光ト云笙吹ト、市允茂光ト云篳篥吹アリ、常ニ寄合テ圍碁ヲ打テ、果頭樂ノ唱歌ヲシテ、心ヲ澄シタレバ、世間ノ事、公私ニツケテ何事モ心ニ入ザル折節、內裏ヨリ、トミノ御事アリテ、時光ヲ被召ケリ、イツモノ癖ナレバ、時光耳ニモ聞入ズ、勅使コハ如何ニトイヘドモ不驚、家中ノ妻子所從マデモ大ニ騷テ、如何ニ如何ニト勸メケレ共、終ニ聞ザリケレバ、御使力及バズ、內裏ニ參テ此由ヲ奏聞ス、何計ノ勅勘ニテカアラント思ケル處ニ、主上仰ノ有ケルハ、勅命ヲ不顧、萬事ヲ忘テ心ヲ澄シ、面白カルランヤサシサヨ、王位ハ口惜キ者哉、サヤウノ者共ニ、行テ伴ハザルラン事ヨトテ、御涙ヲ流シ、御感有ケレバ、事ナル子細ナシ、